

令和7年度
事業計画書

京都府中小企業技術センター

目 次

当センターの概要	1
1 組織図	1
2 人員構成	1
令和7年度事業計画	2
1 技術支援	2
2 人材育成	3
3 研究開発	3
4 関係機関との連携	3
5 情報発信	4
6 地域産業の活性化	4
7 技術支援体制の充実・強化	4
・令和7年度研究会、セミナー・講習会一覧	5
・令和7年度研究会、セミナー・講習会等開催スケジュール	9
・令和7年度所内研究、共同研究	10
・重点技術課題	13
・重点技術課題の設定とセンターの対応力・得意分野	14
（参考）沿革、所在地及び施設等の概要	15

中小企業技術センター憲章

平成24年3月策定

基本理念

私たちは、京都府産業を支える中小企業の技術力向上を支援し、企業活動と地域経済の発展に貢献します。

基本方針

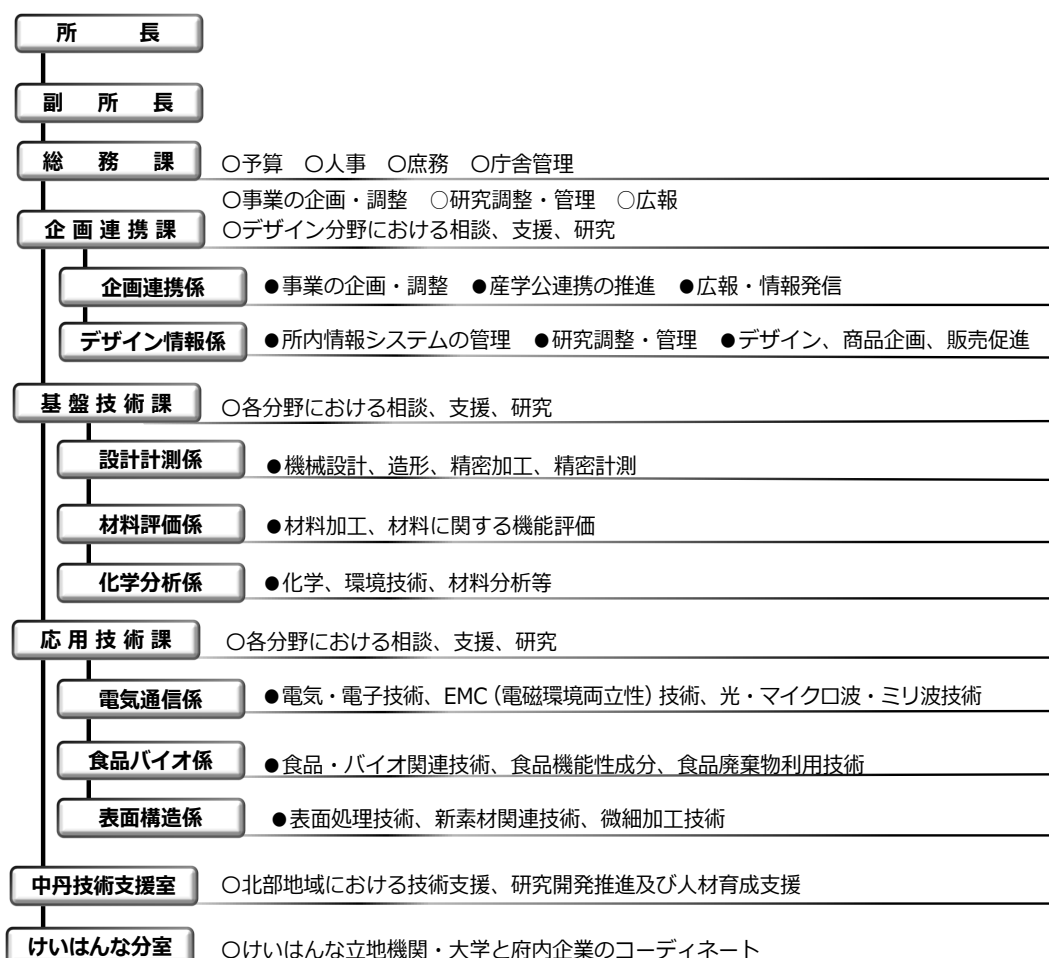
- 1 府内中小企業の皆様の期待に応えられる技術的な価値とサービスの提供をめざします。
- 2 府内中小企業の皆様から必要とされ、気軽にご利用いただけるセンターをめざします。
- 3 産業支援機関や大学など多くのパートナーと連携・協働し、府内中小企業を幅広く応援します。
- 4 サービスの質と量の向上を図り、府内中小企業のイノベーション（技術革新）と持続的発展に貢献することをめざします。

行動指針

- 1 お客様本位
常に当センターを利用されるお客様の立場に立って考え、行動します。
- 2 現場視点
常にお客様との対話を大切に、現地現場の視点から考え、行動します。
- 3 自己革新
常にネットワークを拡げ、産業技術の動向に注目し、自己研鑽を図りながら、自己革新に努めます。
- 4 社会的責任
常に技術支援の社会的責任を自覚し、高い倫理観をもって行動します。

当センターの概要

1 組織図



2 人員構成

	人 数	事 務	
		事 務	技 術
所 長	1		1
副 所 長	1	1	
総 務 課	4	4	
企画連携課	9	2	7
基 盤 技 術 課	9		9
応 用 技 術 課	12		12
中丹技術支援室	4		4
けいはんな分室	1	1	
計	41	8	33

（令和 7 年 4 月 1 日現在）
注：会計年度任用職員を除く。

令和 7 年度事業計画

長引く物価高騰をはじめとする生産コストの上昇や、DX 化をはじめとした急速な技術革新への対応など、先行きが見通しにくく厳しい状況にあっても、京都府内の中小企業の皆様が技術向上に取り組まれ、また社会変革を捉えた新製品開発を進められる中、当センターでは技術支援、人材育成、研究開発、情報発信を柱に様々な企業支援を行っているところです。

令和 7 年度数値目標

	項 目	目 標 値
技術支援	技術相談・指導件数	2, 350件
	機器貸付件数	2, 840件
	依頼試験(種目)件数	1, 180件
	企業訪問件数	450社
	特別技術指導員活用回数	130件
人材育成	研究会・セミナー開催回数	198回
	研究会・セミナー参加人数	5, 500人
研究開発	研究調査(所内・共同・受託)件数	28件
情報発信	ホームページ閲覧件数	280, 000PV(注)

(注) PV : ページビュー

1 技術支援

中小企業が抱える技術上の課題解決や技術水準の向上、新製品や新技術の開発促進などを支援します。

- ・技術相談
- ・依頼試験
- ・機器貸付
- ・企業訪問による現地現場対応
- ・企業への助成、表彰等に係る技術審査
- ・府施策と連携した技術的対応
- ・地域技術相談会の開催

2 人材育成

基盤技術の強化や技術者の育成、新事業展開の準備など、これからのものづくりに必要な幅広い分野のスキル向上のための研究会やセミナー開催等により、中小企業の人材育成を支援します。

- ・研究会、セミナー・講習会の開催

📄 令和7年度研究会、セミナー・講習会一覧（p 5）

📄 令和7年度研究会、セミナー・講習会等開催スケジュール（p 9）

- ・研究生・実習生の受入
- ・中小企業等への啓発

3 研究開発

地域産業や中小企業が直面する技術課題の解決を第一の目標として、通常の技術相談や依頼試験、機器貸付では解決できないテーマや今後必要と見込まれるテーマ等について、所内研究、共同研究及び受託研究として取り組み、中小企業の研究開発を支援します。

- ・所内研究、共同研究 📄 令和7年度所内研究、共同研究（p 10）
- ・受託研究
- ・委託研究
- ・研究課題評価
- ・知的財産の活用
- ・企業との協働による具体的な技術開発の推進

4 関係機関との連携

企業支援の充実を図るため、関係機関等との連携を進めます。また、中小企業が抱える技術課題に対するニーズと大学が保有する技術シーズ、その両方からのアプローチで産学公の連携強化を図り、「大学のまち京都」の資源を生かしたネットワークづくりを支援します。

- ・広域での公設試験研究機関の連携
- ・産業支援機関との連携
- ・大学との連携
- ・業界団体等との連携

5 情報発信

当センターにおける広報をお客様との対話の出発点として基本的な考え方などを定めた「京都府中小企業技術センター広報のありたい姿」の実現をめざし、中小企業等に役立つ情報を迅速に提供し、当センターへの理解の向上と活用の促進を図ります。

- ・ 中小企業への情報提供と府民への広報
- ・ 施設の公開

6 地域産業の活性化

中丹地域の「中丹技術支援室」（綾部市）、「けいはんな分室」（木津川市・精華町）を拠点として、広域振興局や地域の産業支援機関等と連携し、地域特性に応じた支援を実施し、地域産業の活性化を図ります。

- ・ 北部地域におけるものづくり産業の振興
- ・ けいはんな地域における大学・研究機関と企業との連携推進

7 技術支援体制の充実・強化

職員の資質向上や技術継承を図る力を「職員力」と整理してまとめた「研修体系」に基づき、中小企業の期待に応えられる技術・知識、評価・提案力、研究開発力や他機関等とのコーディネート力の向上をめざします。その他、技術支援体制の充実と強化に努めます。

- ・ 技術職員の資質向上
- ・ 機器利用者への支援体制強化
- ・ 知的財産の管理
- ・ 機器の整備
- ・ 業務運営に係る基盤的事項

令和7年度研究会、セミナー・講習会一覧

研究会

	名 称	内 容	担当課・係
1	新工芸研究会	京都の文化と工芸の歴史的経緯を踏まえながら、現代の新たな技術、素材を取り入れ、伝統工芸を横断的に結んだ新たな京都工芸の創造につなげるため、調査研究・試作開発研究・需要開拓研究・その他必要な事業を行います。	企画連携課 デザイン情報係
2	ものづくり分析評価技術研究会	現場で活きる分光分析に関する系統のかつ高度な知識とノウハウを兼ね備えた“ものづくり技術人材の育成”を支援し、ものづくり企業の技術力の向上と製品開発の後押しを図るための研究会を開催します。	基盤技術課 材料評価係
3	京都光技術研究会	幅広い光関連技術分野毎の業界の動向・ニーズについて情報交換を行い、企業間連携の促進、課題に応じた共同研究の立ち上げ等のマッチングを支援します。	応用技術課
4	京都実装技術研究会	電子機器の生産に深く関わる接合・実装技術を中心に、生産現場の高度化のために必な課題や各社が抱えている共通の課題の解決を目的とした、セミナーやワーキンググループ活動を行います。	電気通信係
5	表面処理技術研究会	めっき事業所は、車載部品や電子部品等での QCD への厳しい要求や高度な品質管理、新たな技術開発、発注先への技術提案などができる自社の技術力強化が求められています。その鍵となる現場を担う若手技術者の人材育成をねらいとして、京都府鍍金工業組合青年部と共催し、若手技術者、経営者の技術力向上のため、品質管理、新規市場の開拓について研究紹介や技術講習会を開催します。	応用技術課 表面構造係
6	デジタルマニファクチャリング研究会	開発プロセス(設計ー試作ー評価)での CAE 等ツールの活用を体感できる研究会活動を通して、中小企業のものづくり現場におけるフロントローディングを後押しします。	中丹技術支援室
7	けいはんな技術活用研究会	KICK に導入されている工業製品の設計開発支援機器を活用し、ものづくりの基本的な考え方を踏まえた上で、CAD をツールとして使いこなせる若手技術者の育成を図ります。	けいはんな分室

セミナー・講習会

	名 称	内 容	担当課・係
1	企業情報化支援セミナー	中小企業の情報化を支援するため、関連団体と連携して開催する、情報システムを活用した業務効率化等のための最新技術や動向に関するセミナーです。	企画連携課 デザイン情報係
2	デザイン需要発掘セミナー	グッドデザイン賞とiFデザインアワードの説明会を開催するとともに、デザインを活用したブランディングやマーケティングの実践的なセミナーを行います。	
3	映像制作技術講習会	「映像技術の基礎」をテーマに、ビデオカメラとスマホとの違いや、初心者に起こりやすい失敗、業務で使用する撮影テクニックなどについて実習を交えながら編集時に困らない撮影、三脚などの機材選びまで映像撮影の基本技術を学びます。	
4	機械設計基礎講座	機械設計者は設計から加工まで、広い知識が必要とされます。設計技術者を対象に、設計・製図に必要な材料・加工等の知識や寸法公差・幾何公差の知識について習得する講座を開催し、設計技術力の高い人材の育成を図ります。	基盤技術課 設計計測係
5	3D技術活用セミナー	三次元CAD、3Dプリンタ、3Dスキャナ等、3D技術とその周辺技術の最新動向を紹介し、ものづくり企業の技術と製品開発力の向上、人材育成を支援するセミナーです。	
6	ものづくり先端技術セミナー	中小企業者のものづくり技術開発の高度化を促進するために新機能材料・表面処理技術・精密加工技術・計測評価技術・情報処理技術などの先端的技術情報に関するセミナーを開催します。	基盤技術課 材料評価係
7	化学技術セミナー	中小企業の化学技術への関心を高め、技術開発への支援を行うために、新しい機能材料・加工技術・分析技術などの情報を提供します。また、国際的化学品規制、国内の環境関連法令への対応を支援するため、必要に応じてセミナーを開催します。	基盤技術課 化学分析係
8	機器操作・活用セミナー	新技術・新製品開発に利用できる各種の分析・試験機器等を中小企業が積極的に活用できるよう、機器解説、取扱実習を中心としたセミナーを開催します。	基盤技術課 応用技術課
9	電磁波技術セミナー	5G通信などのマイクロ波・ミリ波や電磁ノイズ対策(EMC)など、電磁波に関する様々な技術に関するセミナーです。これらの技術を用いた製品や技術開発をされている方、これから取り組もうとされている方を主な対象に開催します。	応用技術課 電気通信係

	名 称	内 容	担当課・係
10	光ものづくりセミナー	光関連技術分野の製品開発を行っている企業や、これから新規分野に進出を図りたいと考えている企業を対象に、光関連技術のトレンドや話題の提供を行うセミナーです。	応用技術課
11	実装技術スキルアップセミナー	電子部品等の実装において、各社の課題となっている事象の解決を目的に、現場の実情に応じた実習をメインにしたセミナーです。	電気通信係
12	食品バイオ技術セミナー	食品・バイオ関連技術分野の製品開発・製造・販売を行っている企業に有益な情報を発信し、各企業の事業の推進・活性化に役立てていただくことを目的として、「新しい食品バイオ技術」、「食品市場動向から見る技術開発の方向性」等の内容に関する講演会を開催し、新しい技術情報等を提供します。	応用技術課 食品バイオ係
13	表面技術セミナー	表面処理技術や評価技術、話題となっている製品、材料、加工技術等に関する幅広い情報の提供や大学等の研究シーズの発信を行うとともに、企業連携につながる研究テーマの発掘を目的としたセミナーを開催します。	応用技術課 表面構造係
14	IoT実習セミナー	DXを進める上で欠かせない、電子部品をコントロールするために必要な基礎知識とプログラミングを、参加者自らがPCと試作ボードを使って学ぶ、実習中心のセミナーです。	中丹技術支援室
15	機器操作・活用セミナー	中小企業の技術者自らが当センター中丹技術支援室の機器類を操作、活用するとともに、より多くの評価を行い、生産現場での問題解決の幅を広げることができるようにする実習形式のセミナーです。	
16	工業技術研修	基礎技術力を高めて地域の若手技術者の養成を図るため、機器類を実際に操作して実施する研修です。機械科コースと電気科コースがあります。綾部工業研修所（事務局：綾部商工会議所）と共催。	
17	新分野進出支援講座	中小企業の新分野への進出や展開を支援する講座です。エネルギー、環境、健康、福祉などの分野を中心に、最新情報、取り組み事例、大学のシーズの紹介等を行います。	
18	品質管理(QC)講座	ものづくりの現場における生産管理力の向上と、製品の信頼性向上のために重要な品質管理の知識を習得する講座です。	
19	産業人材育成基礎講座	京都府北部に立地する企業の技術者を対象にした、基礎的な知識を体系的に学べる講座です。今年度は工業材料に関する講座を開催します。	

	名 称	内 容	担当課・係
20	ねじ締結理論研修会	一般的な工学知識の取得を目的として、工業研修基礎（工業高校レベル）、上級（大学レベル）を実施します。地場産業である”ねじ”を取り上げ、原理からその背景にある技術を深め、新開発、設計、生産、検査などで発生するトラブルなどすべてに対応ができる専門家を育成するため、勉強会を開催します。	中丹技術支援室
21	京都大学宇治キャンパス 産学交流会	京都大学宇治キャンパスにある4研究所（化学研究所、エネルギー理工学研究所、生存圏研究所、防災研究所）との産学交流会です。	けいはんな分室

令和7年度研究会、セミナー・講習会等開催スケジュール

(4月1日現在)

月の数字は開催回数

	番号	名称	回数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	担当		
研究会	1	新工芸研究会	12回	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	本所	企画連携課	
	2	ものづくり分析評価技術研究会	3回							1	1	1					基盤技術課	
	3	京都光技術研究会	8回	1	1		1	1		1	1		1	1			応用技術課	
	4	京都実装技術研究会	5回		1		1			1			1		1			
	5	表面処理技術研究会	1回			1												
	6	デジタルマニファクチャリング研究会	未定													中丹技術支援室		
	7	けいはんな技術活用研究会	3回		1		1		1	他、随時開催						けいはんな分室		
セミナー・講習会	1	企業情報化支援セミナー	3回			1				1			1			本所	企画連携課	
	2	デザイン需要発掘セミナー	6回	2			1		1		1		1					
	3	映像制作技術講習会	6回		1	1	1				1	1			1			
	4	機械設計基礎講座	4回						1	3							基盤技術課	
	5	3D技術活用セミナー	2回									1			1			
	6	ものづくり先端技術セミナー	1回										1					
	7	化学技術セミナー	2回							1				1				
	8	機器操作・活用セミナー	4回					1	1	1	1							
	9	電磁波技術セミナー	2回			1				1								
	10	光ものづくりセミナー	2回			1						1				応用技術課		
	11	実装技術スキルアップセミナー	1回									1						
	12	食品バイオ技術セミナー	3回				1			1				1				
	13	表面技術セミナー	2回						1						1			
	14	IoT実習セミナー	6回							2	2	2						
	15	機器操作・活用セミナー	6回								2	2	2					
	16	工業技術研修	74回	機械科コース:37回、電気科コース:37回														中丹技術支援室
	17	新分野進出支援講座	4回									1	1		1	1		
	18	品質管理(QC)講座	9回			3	3	3										
	19	産業人材育成基礎講座	12回			3	3	3	3									
	20	ねじ締結理論研修会	15回	3	3	3	3	3										
	21	京都大学宇治キャンパス産学交流会	4回			1			1			1		1			けいはんな分室	
	22	研究成果発表会	1回				1										本所 企画連携課	

令和 7 年度所内研究、共同研究

京都府総合計画を踏まえて定めた「重点技術課題」(p 13) によることを基本とするとともに、以下のとおりとします。研究の実施に当たっては積極的に競争的外部資金の獲得に努めます。

研究課題設定の視点

- ・ 企業調査等で把握した産業動向や府内企業のニーズを踏まえた技術課題
- ・ 依頼試験等の日常業務に係る課題で、効率化・高精度化に対応する技術手法の開発

研究結果の普及・活用についての視点

- ・ 現況調査では課題を把握・予見すること
- ・ 技術の改善・効率化に役立てること
- ・ 技術の探求や知見の蓄積を行うこと

職員による研究調査

	研究テーマ	概 要	担当課・係
1	4K映像の制作編集技術	中小企業が使用できる、4K映像の撮影と編集技術について、簡易的なものから放送やプレゼンで使用できる業務活用レベルまで、制作技術やソフトウェア、撮影機材について実証研究をおこなう。	企画連携課 デザイン情報係
2	ものづくり企業におけるインハウスデザイナーの役割の変化の調査	日本のものづくり企業における社内デザイン組織は 70 年以上の歴史があるにもかかわらず、未だにその役割は限定的である。インハウスデザイナー(社内デザイナー)が活躍しやすい環境を整えるための一助となるよう、日経デザイン等の雑誌の内容の変遷や、企業インタビューを通して、インハウスデザイナーの役割の変遷を調査する。	企画連携課 デザイン情報係
3	3D スキャナと X 線 CT を複合した 3D モデルの作成について	近年、図面が無い部品などから、3D モデルを作成する需要が高まっており、3D スキャナや X 線 CT が用いられている。しかし、3D スキャナでは取得できない鋭角や奥まった形状がある、X 線 CT ではアーティファクトが入る、撮像できない大きさであるなど、それぞれ不得意な部分がある。そこで、大まかな形状は 3D スキャナで取得し、内部構造や細かい部分は X 線 CT で撮像し、合成するという手法を検討する。	基盤技術課 設計計測係

	研究テーマ	概 要	担当課・係
4	環境負荷低減を目指した樹脂めっきのエッチング処理工程の検討	樹脂めっきのエッチング処理工程では、これまで $\text{CrO}_3/\text{H}_2\text{SO}_4$ 酸溶液が使用されているが、環境問題から六価クロムの使用規制が進んでいる。過酸化水素は、その酸化力からABSをはじめとした樹脂のエッチングに利用できる可能性があり、金属を含まない分、廃棄が容易であることから、これを樹脂への「めっき」工程に活用できないか、濃度・温度・時間などの条件を設定して検討を行う。	応用技術課 表面構造係
5	π 電子共役高分子化合物の合成とその機能評価	塗料や接着材料など有機コーティングと母材表面との相互作用を直接評価するセンサ素子の開発に向けて、 π 電子共役高分子の機能を利用し、物体界面の非共有結合的な相互作用に伴う力の強さを評価する簡便な方法の開発を目指す。今年度は主として合成メソッドの確立に取り組む。	応用技術課 表面構造係
6	ガスクラスターイオンビームを用いた有機膜の深さ方向分析の検討	光電子分光分析装置(XPS)のガスクラスターイオンビーム(GCIB)によるエッチングはイオン銃と比べ、有機試料に大きなダメージを与えることがなく、深さ方向分析ができる。そこで、有機膜について、GCIB によるスパッタを行い、深さ方向分析の挙動を確認する。	応用技術課 表面構造係 基盤技術課 材料評価課係
7	3次元デジタルデータの物体検出に関する検討	3次元センサーの性能向上に伴い3次元デジタルデータの活用が盛んになっている。今回、取得した点群データから指定した部品検出についての検証を行い、有用性・実装の難易度など検討する。	中丹技術支援室

企業等との共同研究

	研究テーマ	概 要	担当課・係	共同研究者等
1	藻類由来金属マイクロコイルを分散したテラヘルツ帯電磁波応答材料の開発	天然藻類であるスピルリナをバイオテンプレートとして用いたマイクロコイルはテラヘルツ帯において電磁波に対する優れた応答性を有し、この特性を利用して次世代通信の電磁波吸収材料としての応用に向けた研究を実施する。	基盤技術課 材料評価係	1 大学、 2 企業 ほか
2	テラヘルツ波を用いた新規う蝕診断技術の開発	テラヘルツ波の高い透過性を利用して非侵襲性の新規う蝕診断技術を開発する。	基盤技術課 材料評価係	3 大学 ほか

	研究テーマ	概 要	担当課・係	共同研究者等
3	テラヘルツとヴァテライトを用いた水没検知の研究	炭酸カルシウム的一种であるヴァテライトを接着剤に混合し、水との接触に伴う結晶転移を用いて水没検知マーカーとして利用する取り組みを進めている。合成して得られたヴァテライトは数 μm 程度の粒径となっているが、さらに微粒化することにより水没検出能を向上し得ることが期待できる。そこで本研究では、種々のパラメータのもとでヴァテライトを粉砕し、その粒径と水没検出能の関係について検討する。	基盤技術課 材料評価係	1 企業 ほか
4	ガラス表面上の欠陥の識別システムの検討	光学材料等に使用されるガラスについて、加工時において発生する表面上の微小な傷や孔などの欠陥を職人による目視検査で進めている事例がある。ただ検査対象の中には基板など平板形状であるが数量が多いものもあり、人的リソースを要する課題がある。本研究ではこのような簡易構造(平板)を対象とし、欠陥の鑑別を自動に行う補助システムの開発について検討を進める。	応用技術課 電気通信係 企画連携課 デザイン情報係	1 企業 ほか
5	アルミナ放熱素子の性能評価及び設計環境構築に関する研究	電子回路基板には回路や電子部品の保持に加え、使用時に発生する熱の放出機能が求められる。特に大電力を取り扱うパワーエレクトロニクス分野では放熱性能が重要となる。本研究ではアルミナ放熱素子の熱伝導率・放射率等の性能を評価し、放熱素子の開発・設計のための放熱シミュレーションを試みる。	応用技術課 電気通信係	1 企業 ほか
6	乳酸菌が生産する菌体外多糖(EPS)の化学的性状	府内中小企業が保有する各種乳酸菌株を用いた乳酸発酵による乳酸菌飲料の試作を行い、菌株や培地組成の違いによる EPS の生産性を比較する。また、高速液体クロマトグラフや LC-TOF/MS 等の機器を用いた分子量や糖組成等の分析を行い、得られた EPS の化学的性状を比較する。	応用技術課 食品バイオ係	1 企業 ほか
7	京都府産品からの有用短鎖脂肪酸産生菌の探索	近年、腸内細菌代謝産物である短鎖脂肪酸の重要性が示唆されており、短鎖脂肪酸産生菌を直接摂取するプロバイオティクスによる機能性食品の開発が期待される。そこで短鎖脂肪酸を含有する京都府産品に着眼し、短鎖脂肪酸産生菌の単離を試みる。	応用技術課 食品バイオ係	1 企業 ほか
8	タッピンねじのゆるみ挙動解析について	タッピンねじ(3 種、CTITE)の温度変化によるゆるみ特性をシミュレーションし、緩みのメカニズムを解明する。	中丹技術支援室	1 企業 ほか

重点技術課題

1 研究課題や研究結果の普及・活用についての考え方

- (1) 重点技術課題は令和4年12月に改定された「京都府総合計画」や令和6年度に府市で合意した「半導体産業の振興」の取組方策「（仮称）京都半導体バレー構想」からキーワードを抽出して決定する。
- (2) 研究課題は次のことを踏まえたものとする。
 - ・企業調査等で把握した産業動向や府内企業のニーズを踏まえた技術課題
 - ・依頼試験等の日常業務に係る課題で、効率化・高精度化に対応する技術手法の開発
- (3) 研究結果の普及・活用については次のことを考慮する。
 - ・現況調査では課題を把握・予見すること
 - ・技術の改善・効率化に役立てること
 - ・技術の探求や知見の蓄積を行うこと

2 重点技術課題の設定とセンターの対応力や得意分野（別表参照）

(1) 「京都府総合計画」からのキーワード

「ビッグデータ」、「AI」、「IoT」、「VR・AR」、「食」、「ロボット」、「脱炭素」

*以下「中小企業の特定ものづくり基盤技術の高度化に関する指針」の技術分野

ア ビッグデータ、AI、IoT、VR・AR

（ア）スマートシティ、キャッシュレス、自動運転、遠隔医療、防犯、福祉等に係るビッグデータの活用とAI、IoT等の技術の高度化

デザイン開発、情報処理、精密加工、製造環境、接合・実装、立体造形、表面処理、機械制御、複合・新機能材料、材料製造プロセス、バイオ、測定計測

（イ）観光、技術継承、文化継承に係るVR・AR等の技術の高度化

デザイン開発、情報処理、機械制御、測定計測

イ 食

製造環境、機械制御、バイオ、測定計測

ウ ロボット

デザイン開発、情報処理、精密加工、接合・実装、立体造形、表面処理、機械制御

エ 脱炭素

（ア）温室効果ガス排出抑制、再生可能エネルギー、廃棄物減量化に係る脱炭素の技術の高度化
製造環境、機械制御、複合、新機能材料、材料製造プロセス、バイオ

(2) 「（仮称）京都半導体バレー構想」からのキーワード

ア 地球環境問題の解決に繋がるパワー半導体分野

イ 次世代通信技術等の多様な分野に活用される光半導体分野

ウ エッジ型のAIチップ等AI半導体分野

(3) 企業調査等で把握した産業動向や府内企業のニーズを踏まえた技術課題

ア 素材開発に係る技術課題

イ 計測制御技術（ソフト開発、プログラミング）の課題

ウ 業界動向や府内企業のニーズを把握するための調査

エ 指導分野の技術課題

(4) 依頼試験等の日常業務に係る課題で、効率化・高精度化に対応する技術手法の開発

ア 機器利用の高度化、高効率化、迅速化

イ 設計評価技術の迅速化

重点技術課題の設定とセンターの対応力・得意分野

課題の出典	技術課題	技術分野	センターの対応力・得意分野							
			企画連携	デザイン情報	設計計測	材料評価	化学分析	電気通信	食品バイオ	表面構造
(1)京都府総合計画 （キーワード）	IoT・AI等	デザイン開発		○						
		情報処理		○						
		精密加工			○					
		製造環境			○		○	○	○	
		接合・実装				○	○	○		
		立体造形			○					
		表面処理								○
		機械制御			○			○		
		複合・新機能材料				○	○			○
		材料製造プロセス				○				
		バイオ							○	
		測定計測			○	○	○	○	○	○
	ロボット	デザイン開発		○						
		情報処理		○						
		精密加工			○					
		接合・実装				○	○	○		
		立体造形			○					
		表面処理								○
		機械制御			○			○		
	食	製造環境			○		○	○	○	
		機械制御			○			○		
		バイオ							○	
		測定計測			○	○	○	○	○	○
	脱炭素	製造環境			○		○	○	○	
		機械制御			○			○		
		複合・新機能材料				○	○			○
		材料製造プロセス				○				
		バイオ							○	
(2)「（仮称）京都シリコンバレー構想」（キーワード）	パワー半導体				○	○	○	○		○
	光半導体				○	○	○	○		○
	AI半導体				○	○	○	○		○
(3)企業調査等で把握した産業動向や府内企業のニーズを踏まえた技術課題	素材開発に係る技術課題					○	○	○	○	○
	計測制御技術（ソフト開発、プログラミング）		○	○	○			○		
	業界動向、企業ニーズの把握のための調査		○	○	○	○	○	○	○	○
	指導分野の課題		○	○	○	○	○	○	○	○
(4)依頼試験等の日常業務に係る課題で、効率化・高精度化に対応する技術手法の開発	機器利用の高度化、高効率化、迅速化						○		○	○
	設計評価技術の迅速化				○					

* 重点技術課題は太枠内、○印は主な担当

沿 革

昭和21年4月	下京区西七条名倉町に京都府立機械工業指導所が開設され、旧京都府立機械工養成所の全職員と全施設がこれに引き継がれた。
昭和25年8月	京都府立産業能率研究所の設立
昭和37年8月	産業能率研究所と機械工業指導所を統合し、京都府立中小企業指導所を設置（それぞれ経営指導部、技術指導部となる）
昭和41年6月	名称を京都府立中小企業総合指導所に変更
平成元年10月	京都リサーチパーク内に移転。名称を京都府中小企業総合センターに変更
平成13年4月	組織変更（経営・技術各部門を機能別に再編、けいはんな分室設置）
平成17年4月	組織変更（経営部門を(財)京都産業21に移管し、名称を京都府中小企業技術センターに変更）
平成19年4月	組織変更（北部産業技術支援センター・綾部に中丹技術支援室を設置）
平成20年4月	組織変更（部制を廃止し、4課2室に変更）
平成24年8月	京都府中小企業技術センター創立50周年記念事業開催
平成27年4月	けいはんな分室を「けいはんなオープンイノベーションセンター（KICK）」に移転
平成30年4月	中丹技術支援室を「北部産業創造センター」に移転

所在地及び施設等の概要

- ① 本 所

所 在 地	京都府京都市下京区中堂寺南町134 (七本松通五条下ル 京都リサーチパーク内)
土 地	1,380㎡
建 物	7,296㎡（延床面積）（平成元年8月竣工、平成13年12月増築）
・ 本 館	6,175㎡（鉄骨・鉄筋コンクリート造 地上5階、地下1階（2階を除く））
・ 研究交流棟	1,121㎡（鉄骨・鉄筋コンクリート造 2階建のうちの1階部分）
設備・機器	約200機種（100万円以上の機器）

- ② 中丹技術支援室

所 在 地	京都府綾部市青野町西馬場下33-1 (北部産業創造センター内)
建 物	1,472㎡（鉄骨造 2階建）
設備・機器	約100機種

- ③ けいはんな分室

所 在 地	京都府木津川市木津川台9丁目6／相楽郡精華町精華台7丁目5 関西文化学術研究都市（京都府 精華・西木津地区） (けいはんなオープンイノベーションセンター（KICK）内)
-------	--

令和 7 年度事業計画書

令和 7 年 6 月

京都府中小企業技術センター

〒600-8813 京都市下京区中堂寺南町 134
(七本松通五条下ル)

TEL 075-315-2811

FAX 075-315-9497